



上越市立牧小学校

第3号

学校だより

令和2年7月1日

凡事徹底 ～平凡を非凡に努める～

校長 百目鬼 弘通

私が小学生か中学生の頃に、ある先生（校長先生？学級担任？）がある時、「あたり前のことをあたり前にすることがいい学校を創っていく。ここにいる皆さんは、それができると信じている」というようなことを話されました。そして、今「いい学校ってどんな学校」を考えると、やはり「あたり前のことをあたり前にできる」ことが真っ先に浮かんできます。

校長室に遊びにくる子どもたちに「学校のあたり前って何？」と聞いたところ、「あいさつをすること」「けんかをしないこと」「返事をきちんとすること」「人の話をちゃんと聞くこと」「マスクをすること」「帽子をかぶること」「勉強を一所懸命にすること」…たくさん出てきました。どれもこれも、とても大切なあたり前です。

私たちは誰でも、平凡なことより何か大きなことを好むように思います。といっても、いきなり大きなことはできません。平凡なことを非凡に積み重ね続けるしかありません。平凡な、あたり前のことを徹底的に非凡に努めていく。実はこれは非常に難しいことだと感じます。例えば整理整頓、掃除は、あまりにも平凡なことであり、すぐに何かの成果や業績に結び付きません。だから、だんだんとやらなくなってしまいがちです。しかし、簡単なこと、単純なことを極めていく、この微差の積み重ねが、大きな差につながっていくものです。つまりは、あたり前のことをあたり前に実践していくことで、自らが思っている自分の力以上の力をいざという時に発揮できるのではないのでしょうか。学校でいえば、みんなが「あたり前のことをあたり前に行う」ことで、まさに「いい学校」が創られていくものと思います。

凡事徹底－「あたり前のことをあたり前にやるのではなく、あたり前のことを人にはまねのできないほど、一生懸命やる」－そして、牧小で「素敵なあたり前」が増えていき「あたり前の基準の向上」が図られることを願っています。



〔横断歩道は手をあげて〕



〔一日の始まりは「おはよう」から〕

二つのあたり前
あいさつ
交通安全

体験は、学びの宝庫

学校が通常再開し、約1ヶ月経ちました。まだ、感染予防対策のため制約はありますが、徐々に普段の教育活動を行うことができるようになってきました。

そんな中、地域の方からお話をお聞きしたり、教室を飛び出してリアルな体験をしたりと子どもたちは様々な形で、その学びを深めています。先人は「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、理解する」と体験することの重要性を説きました。体験とは、その人自身が実際に自分の身体を使い「見る」「聞く」「触れる」など五感を使って感じる行為です。体験することは、他の誰のものでもない自分自身の「気づき」を得る機会となります。

子どもたちは、学校生活の中での体験をとおして、学び、成長しています。

「プール清掃」 ～プールを利用する方々のために 利他の心で～

6月5日（金）、5、6年生と牧中1、2年生が合同で牧プールの清掃を行いました。当校では、今年度水泳授業は行いませんが、牧区総合事務所から夏季休業中のプールの開放に備えて清掃の依頼があり、地域貢献活動の一環として行いました。

自分たちが授業で使うことはできないけれど、プールを使う人たちに気持ちよく使ってもらいたいと一生懸命に清掃活動をしました。

誰かのためという「利他の心」を学び、実践した5、6年生たちでした。



「交通安全教室」 ～交通安全の専門家の方々からの学び～



6月10日（水）に、1～4年生を対象とした「交通安全教室」を開催しました。牧の駐在所のお巡りさん、上越市安全教育指導員さん、上越市役所交通安全担当の方から懇切丁寧にご指導をいただきました。

3、4年生はグラウンドで自転車の安全な乗り方を、1、2年生は学校近くの横断歩道や横断歩道のないところでの安全な道路横断の仕方を学びました。

実技指導のほかに、映像を使って交通安全のルールを楽しくご指導いただきました。

お巡りさんをはじめ指導していただいた方々から交通ルールを守るとともに、「自分の身は自分で守る」ことの大切さを学ぶことができました。

6年生総合的な学習の時間

～牧のために働く人々に学ぶ～

牧で高齢者の方に毎週お弁当を届けているなど食事をとおして地域に貢献している「よもぎの会」の小林様と依田様をお招きし、お話をお伺いしました。お二人は、牧で気持ちよく住んでもらいたいと思い、活動を続けているそうです。

6年生は、お弁当を受け取る高齢者の方へ手紙を書いています。その手紙を高齢者の方は、とても楽しみにしているということを知り、6年生は、ますますやる気が出たようでした。

授業の最後に代表児童が「まわりの人たちへの気づかひや顔を見て話すことが大切だということを知り、学ぶことがたくさんありました」と感想を述べました。



5年生総合的な学習の時間

～鯉とともに学びを深める～



TVカメラ3台、新聞等5社と大勢のメディアや世話人の佐藤建一様をはじめとする関係者に見守られる中、5年生7名は隠することなく一人5匹、合計60匹の鯉を田んぼに放流しました。

子どもたちは、「こいには、ざっ草をはやさないとめとがい虫を食べてくれるなどいろいろな役割があります。こいもいねも大きく育ててほしいと思いました」「次にくるときに、いねもこいもどれくらい成長しているか見たり、まわりの草を取ったりするのが楽しみです」と振り返りました。鯉と稲の成長とともに、牧の伝統農法や環境問題、食育等の学びを深めていくことを期待しています。

長瀬 英司様講話

～偉大な方の言葉に学ぶ～

毎年、当校に素敵な本を贈ってくださる牧出身（名古屋市在住）の長瀬英司様より子どもたちへ3名の偉大な方の言葉のメッセージをいただきました。

○平澤興さん「生きるとは 燃ゆるなり」

○山中伸弥さん「失敗すればするほど幸運は来る。若い間にいっぱい失敗して、挫折してください」

○イチローさん「夢、小さなことの積み重ね」と併せて、小学校の卒業作文も紹介していただきました。

人生で真剣勝負した人の言葉は、私たちに希望や勇気、力を与えてくれます。子どもたちは、真剣に長瀬様のお話に聞き入っていました。



いじめの認知について ～いじめについて、考えよう～

新潟県では、学校、家庭、地域が連携して、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題の解消と未然防止に社会全体で取り組むことを目標として、「いじめ見逃しゼロ県民運動」を展開しています。次に示す事例をお子さんと一緒に考えてください。

体育の時間にミニバスケットボールの試合をした際、球技が苦手な B さんはミスをし、A さんからミスを責められたり、他の友だちの前でバカにされたりして B さんは、とても嫌な気持ちになりました。

さて、皆さんは、この事例をいじめととらえますか？

文部科学省のいじめの定義^{*}に照らし合わせると、これは「いじめに該当」します。

※いじめとは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」

学校では、嫌な思いをしたと訴えた児童から聞き取ったことと、その行為をしたと思われる児童やまわりの児童から聞き取った情報等をすり合わせた上で事実確認をします。その上で、それぞれのご家庭に連絡をさせていただきます。ご家庭によっては、こんな些細なことまで連絡するのか、あるいは、教師が適切に関わりながら子どもたちだけで解決できるようにして欲しいと思われるかもしれません。しかし、いじめはほんの些細なこと（こんな事案まで…、1回きりなのに…）から予期せぬ方向に推移し、自殺等の重大な事態に至ることもあるのが現実です。些細なことととらえず、ぜひお子さんと話し合う機会を設けていただきたいと思います。人間として何がいけなかったのかを学ぶ機会をつくっていただきたいと思います。

保護者の皆様や地域の皆様と力を合わせて、子どもたちを見守り、必要に応じて指導し、解消していきたいと思います。ご理解とご協力をお願いいたします。

課外体育(水泳・陸上)、課外音楽の活動について

水泳の課外活動については、水泳の授業も行うことができませんので、行いません。陸上及び課外音楽の活動につきましては、子どもたちの実態や今後の感染症の状況等を踏まえながら検討して参ります。ご理解とご了承をお願い申し上げます。

なお、すでにお知らせしたところですが、今年度の上越市小学校体育連盟主催のブロック及び地区水泳大会、親善陸上大会は中止となりました（上越地区小学校水泳選手権大会は、今年度をもって所期の目的を達成したということで廃止となります）。

7月の主な予定（今後変更される場合があります）

3日（金）学習参観、期末PTA
学年懇談会

16日（木）クラブ活動
31日（金）第1学期終業式

今月のことば：「一つを励めば、すべてが変わる。一つを続ければ、すべてが変わる。」